

公民科（政治・経済）学習指導案

1 単元名 日本経済と福祉の向上

この単元は、「2 内容」の「A 現代日本における政治・経済の諸課題」の「(1)現代日本の政治・経済」に該当する。

2 単元目標

- (1) 現実社会の諸事象を通して日本の経済的課題を理解する。
- (2) 現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。
- (3) 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 経済活動と国民の福祉向上に関して、見通しをもって学習に取り組み、主体的に追究する。

3 単元の指導計画（全体 14 時間）

(1) 指導計画

- ・ 中小企業と農業・食料 4 時間
- ・ 公害防止と環境保全 2 時間
- ・ 消費者問題と消費者保護 2 時間
- ・ 労使関係と労働市場 3 時間（本時 9/14 および 10/14 時）
- ・ 少子高齢社会と社会保障 2 時間
- ・ 日本経済の課題 1 時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実社会の諸事象を通して日本の経済的課題を理解している。 ・ 現在の日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、現代的課題を解決する方法を自分なりに表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動と国民の福祉向上に関して、見通しをもって学習に取り組み、主体的に追究している。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 【学習課題】<単元を貫く問い>「現代の日本の経済的課題を解決する新しいアイデアは何かがあるか」 【学習課題】「中小企業や農業に従事している人になったとして、現代の中小企業や農業の課題をどのように解決するか」 ・ 中小企業 ・ 農業 	【ねらい】中小企業と農業の課題を解決する方法を考察する。			●	<ul style="list-style-type: none"> 【態】 (B)振り返りシートの記述から、経済的課題を解決する視点が広がっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート1、2の記述を基に評価する。 ・ 振り返りシートの記述を基に評価する。
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 【学習課題】「エシカル消費を促すために企業が出来ることは何か」 ・ 公害防止と環境保全 	【ねらい】環境問題に対応した企業の取り組みを考える。	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 【知】 (B)環境問題への対策を理解している。 【思】 (B)環境保全のために企業が出来る取組について具体例を挙げて考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート3の記述を基に評価する。

第3次 (2)	【学習課題】「消費者問題における経済的課題は何か」 ・消費者問題と消費者保護	【ねらい】消費者問題と消費者保護を理解する。	●		【知】 (B)消費者問題を理解している。	・ロイロノートで提出した回答の内容を基に評価する。
第4次 (3)	【学習課題】「女性の労働や労働の多様性を重視することをどのように実現するか」 ・労使関係と労働市場	【ねらい】労使関係における課題の解決方法を企業の視点から考える。		○	【思】 (4)ア参照	・ワークシート4と振り返りシートの記述を基に評価する。
第5次 (2)	【学習課題】「社会保障の役割から、人々の福祉向上のためのよりよい方法は何があるか。」 ・少子高齢社会と社会保障	【ねらい】社会保障によって国民の福祉向上を目的とした経済的政策や企業の取組によって公正な社会を実現する方法を考える。	●	●	【知】 (B)社会保障の役割と課題を理解している。 【思】 (B)人々の生活がより豊かになる方法について考察する。	・ロイロノートで提出した解答の内容を基に評価する。 ・ワークシート5の記述を基に評価する。
第6次 (1)	・単元を貫く問い	【ねらい】日本経済の課題について多面的・多角的に理解している。国民の福祉向上について自らの考えを追究しようとしている。			【態】 (4)イ参照	・振り返りシートの記述を基に評価する。

(4) 評価問題及び評価規準

ア ワークシート4の評価規準【思考・判断・表現】

女性が抱える労働問題についての課題を基に、その課題を解決する方法を考察している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・女性の労働の課題を基に解決方法を説明している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・女性の労働の課題を基に、グループの意見も反映しつつ解決方法を具体的に説明している。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・女性の労働の課題を基に解決方法を説明していない。→課題を整理し、改善方法を記入できるように支援する。

イ 振り返りシートの評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

日本の経済的課題を解決するため、新しいアイデアを提案することができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・単元で学んだことを踏まえて新しいアイデアを提案することができる。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・単元のはじめに自らが記述したと単元で学んだことを踏まえて、新しいアイデアを提案することができる。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・アイデアを提案することができない。→振り返りシートを活用して自己分析を支援し、アイデアを提案することができるように促す。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 労働環境における男女間の格差を資料から読み取り、自分なりの解決方法を考察する。

イ 日本の経済的課題を解決する新しいアイデアについて、単元を通じて学んだ内容を基に

自ら追究している。

(2) 本時の展開 (2時間分)

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 日本の労働環境 女性の労働についての課題 	<ul style="list-style-type: none"> 日本では労働三法によって労働者の権利が守られていることを法律の内容から理解する。 資料「男女間の所得格差」より、女性の労働についての課題を見つけ出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共での既習事項もあるため、法律の具体的な部分を確認して軽重をつける。 グラフやデータから男性や他国と比較しつつ、日本の女性労働者が抱える問題を追究するように伝える。
展開1	<ul style="list-style-type: none"> マンダラチャートによる課題分析 	<ul style="list-style-type: none"> マンダラチャートで女性の労働についての課題を中央の8マスに記入した後、グループに分かれ、アイデアをブラッシュアップする。 	<ul style="list-style-type: none"> グループにおける役割は発表、入力、批判、時間管理の四つに分ける。 生徒の自由な発想で数多くの考えを書くように促す。
展開2	<ul style="list-style-type: none"> アイデアのまとめ 批判 発表準備 解決策の発表 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたアイデアからどのような経営方法が女性の労働環境の改善につながるのかを立案シートにまとめる。 グループ内の批判者が、グループのまとめに対して、現実的・経済的な観点から批判する。 グループで考えた解決策を発表する準備を行う。 それぞれのグループの発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> マンダラチャートで解決策につながるとされるコマを見つけ、立案シートに伝わりやすいように具体的に記入するように促す。 発表を聞いているグループは内容をまとめ、発表の中で取り入れたい意見をワークシートに一つずつ書き出す。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自らが考えた解決方法を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート4 【思考・判断・表現】

(3) 本時の評価規準

3 (4) ア参照

5 成果と課題

(1) 評価結果の分析

評価結果は右のとおりであった。思考・判断・表現については、アイデアの斬新さではなく、課題をきちんと捉え、他のグループの意見を踏まえて対策を述べている生徒をA評価とした。また、C評価の生徒に対しては、他のグループの意見をワークシートで書き取り、他者の意見を参考にしながら記述していくことが大切であると伝えた。

評価	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	19名	15名
B	11名	16名
C	1名	0名

主体的に学習に取り組む態度については、単元の始めに「振り返りシート」に今分かる範囲で「単元を貫く問い」に対する自らの答えを考えるように指導した。そして、単元の終わりに改めて「単元を貫く問い」に対する答えを考える場面を設け、単元の学習を通じてどのように自らの

考えが変容したかを振り返るように工夫した。ほとんどの生徒が単元の学習前よりも学習後の方が具体的な内容を記述することができており、5割以上の生徒がA評価となった。今回の実践を通して、生徒は、企業がどのような観点で営利活動をしているのかという見方・考え方を学ぶことができたと考えている。

(2) 成果と課題

アイデアを考える際にマンダラチャートを活用した。生徒はエクセルで考えを共有できたため、グループで共通認識をもつことができた。また、課題解決のためのアイデアを考えると、どうしても絵空事になってしまう傾向がある。そこで、現実味のあるアイデアを考えるようにするため、グループに「批判者」を設けた。「批判者」は、考えたアイデアに対して、「いつ?」「どうやって?」「いくらで?」などの疑問を投げかけ、アイデアを実現可能なものに近づける役割を担い、その疑問を投げかけて応答を繰り返して練られたアイデアを、「立案シート」にまとめ、提案（発表）する流れにした。

今回、アントレプレナーシップ精神を意識し、教科書に示されていない解決策を考える単元を構想し、自分の意見を自由に述べる機会を設けたが、やはり各分野に対して調べたり、考えたりする時間が十分に確保できなかったために、内容は浅いものになってしまったことは否めない。より深い学びが実現できるように、今後もよりよい単元の指導計画の在り方を探っていききたい。

6 参考文献

- ・『「農企業」のアントレプレナーシップ 攻めの農業と地域農業の堅持』（小田滋晃ほか、昭和堂、2016年）
- ・『アントレプレナーシップ入門 ベンチャーの創造を学ぶ』（忽那憲治ほか、有斐閣、2022年）
- ・『アントレプレナーシップ課題解決ワーク』（平井由紀子、角川アスキー総合研究所、2024年）
- ・『エシカル・アントレプレナーシップ 社会的企業・CSR・サステナビリティの新展開』（横山恵子ほか、中央経済社、2018年）